



60

田辺市龍神村は果樹と人の縁があふれてる

金丸弘美

食総合プロデューサー

長男・知弘が結婚後、妻りさ、娘ちなをともなつて和歌山県田辺市龍神村へ移住した。

和歌山県の中心部。田辺市内から、およそ車で1時間の山間地だ。すぐ近くには美人の湯で知られる温泉がある。

住まいは木造住宅「アトリエ龍神の家」。6棟あり、龍神村が合併前にアーティストの家として紀州材を使い建てたところだ。すでに映像作家、染め物作家、エアブラシアーティストなどで5棟が埋まり、空いていた1棟に入居した。

住まいをお隣さんたちの力も借りてリノベーションし『食品工房CONSERVA』を創った。

和歌山は梅やミカンなど果樹が多いことで知られる。それらを材料にしてジャムを中心に加工品を作り始めた。ミカンとリンゴにシナモン。ゴールドキウイと柚子で綺麗な黄色のジャム。キウイ・リンゴ・サツマイモにジンで香りづけ。極早生ミカン・ニンジン。ミカン・タンカン・ポンカン。サツマイモと柚子にアクセントで梅酒。バナナと早生みかん、香りづけにカシスリキュール。イチゴにこしあん。基本の食材は、近くの農家から分けてもらったもの。十数種類が生まれた。

果実の食材は地域を中心に。手に入らないものは、町まで購入にをかけている。食材専門店や農産物直売所もある。

周辺の農家では、ミカン、ダイダイ、レモン、タンカン、キウイ、ポンカン、柚子、甘夏などがある。柑橘だけでも80種類はあるだろう。組み合わせを変えていけば、ジャムは四季ごと多彩に生まれることとなる。

ジャムだけではない。好評は梅の甘露煮。梅の産地なのに甘露煮がなく、作ってみたなら人気商品となった。

お店ではコーヒーを出す。食事を求められたら、イタリアの平たいパン・フォカッチャにレタスやベーコン・トマトソース・柚子。エビの揚げ物・キャベツのサンドイッチなども作る。

妻りささんが作る「きまぐれベーグル」も評判



「食品工房 CONSERVA」の店内

だ。いちじく・クリームチーズ。アールグレイ。ココナッツ。こしあん。リンゴ・クリームチーズ。黒糖チョコ。抹茶ホワイトチョコレート。揚げベーグル・きな粉砂糖。ときにはマフィン。フレンチトーストも。

彼女は、東京・目黒生まれの目黒育ち。田舎暮らしにあこがれていた。でも、移住してみたら大好きだったベーグルを売っているとかがない。では、自分で作っちゃおうと、試行錯誤で自家製ベーグルを作り週一回販売もするようになった。ご近所さんがコーヒーを飲み、そして買いものにもきてくれたりする。

山の中。販売はどうするのだろうかと思っていたら、月一度の美浜地区のお祭りに夫婦で出店したり、地元の直売所「きてら」に出したり、町の家具屋さんが置いてくれたりもしているのだとか。

それと大きかったのが、田辺市が2016年から始めた「たなべ未来創造塾」。この塾生に田辺市熊野ツーリズムビューロー会長・多田稔子さんが長男を推薦してくださったのだ。熊野古道が世界遺産になったのをきっかけに海外客に対応ができ、情報発信と宿の予約ができるようにした組織の会長さん。海外客の利用が大幅に増えた。多田さんは塾の講師もされた方。

塾は地域で事業をする若い人を支援するために生まれた。熊野古道の世界遺産で海外客が増えていることから、新たなビジネスを生みだしてもら



金丸知弘さん、りささん夫妻

い地域をより豊かにしようとはめられた。20代から40代12名が参加。農家、流通、工務店、家具店、介護福祉士、デザイナーなどで、連携して仕事につながるメンバーが集まった。

このおかげで長男・知弘は、役場

商工会、金融機関、大学、地元事業者の人たちと一気に知りあいが出て、その人たちがお店まで訪ねてきたり、タウン誌やウェブで紹介したりしてもらったりと、ネットワークが広がった。そこから口コミで販売先も広がった。

塾を立ち上げた、たなべ営業室企画員の鍋屋安則さんに伺うと「熊野古道が世界遺産となつて、そこに向けてビジネスをできる人をということで塾メンバーを選しました。金丸君は推薦というのものもあるけど、塾生が旧市街地の人が中心。山間部の人もほしい。それと食品は、なにより幅があるし、必要なものだったので入ってもらいました」とのこと。

そもそも知弘は、なぜ和歌山だったのか。彼は、結婚前、トリノに本店のある「イタリィ」代官山と三越本店でイタリア料理を学んだ。そのあと日本を一周。そのとき和歌山にも寄つて、果物が豊富で、ここで食品加工をすれば、いいものができると思つていたらしい。そのあとイタリアに留学し料理を学んだ。帰国後、東京のレストランで働いた後、和歌山へと移住した。イタリアのレストランで、旬の野菜や果物などの食材を自分たちで加工し、それを料理に使うことを学んだことが刺激になったようだ。

大きなきっかけとなったのが、和歌山県が東京・有楽町「ふるさと回帰センター」で開いた移住のセミナー。そこに移住した人として登場したのが、田辺市龍神村に住んでいる映像作家の中島英介さん。彼が体験談を話した。実際に現地を訪ねるツアーがあり、夫婦で参加をしたあと移住を決めた。そしたら、中島さん家族とお隣同士となり、家族付き合いも始まったというわけ。

実際、現地に訪ねたら、市と地域の人たちの応援によって、素敵な広がりになっていった。